





「うちには何も^{なに}ないが、火^ひは暖^{あたた}かいぞ。」

「うん、暖^{あたた}かい。暖^{あたた}かい。」

鬼^{おに}たちは、とても喜^{よろこ}びました。そして、

「じいさん、親^{しんせつ}切^つだなあ。何^{なに}か欲^ほしい物^{もの}があるか。」

と、聞^ききました。おじいさんは、

「うーん。じゃあ、温^{あたた}かい甘^{あま}酒^{ざけ}が欲^ほしい。みんな^ので飲^のもう。」

と、言^いいました。鬼^{おに}たちは、

「よし、わかった。」

と言^いって、出^でて行^いきました。そして、甘^{あま}酒^{ざけ}と、た^くさ^んの^のごち^{そう}と、お金^{かね}を

持^もって、戻^{もど}ってきました。それから、みんな^ので甘^{あま}酒^{ざけ}を飲^のみました。鬼^{おに}たちが、

大^{おお}き^{こえ}い声^{うた}で歌^{うた}いました。おじいさん^も、大^{おお}き^{こえ}い声^{うた}で歌^{うた}いました。と^とて^とも^もに^にぎ^やか^かです。

みんな^で、朝^{あさ}まで踊^{おど}りました。